

講義コード Course code	021021102
講義名 Course title(Japanese)	文化人類学B
英文講義名 Course title (English)	Anthropology B
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	後期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日
時限 Period	4時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

### 授業の内容（主題） Course description

文化人類学Aの内容を受けて、対面授業を実施する。  
具体的には、土器づくり民族誌ならびに宗教人類学（呪術）にフォーカスして授業を進めたい。  
結果として、他者・異文化と向き合う新しい視座をみつけてほしい。

### 到達目標 Course objectives

1. 土器づくり民族誌の概要を理解し、独自のアジア観を涵養する。
2. アジア各地の呪術実践について、知見を拓げる。
3. 宗教人類学の視点から、汎アジア的な文化観を構想できる。

### 授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	土器づくり民族誌 (1)	ネットで構わないので、関連する研究論文を検索し、読んでみてほしい。 そのために、4時間の学修を求める。
第2回	土器づくり民族誌 (2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。 そのために、4時間の学修を求める。
第3回	バングラデシュ の呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。 そのために、4時間の学修を求める。

第4回	スリランカの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	台湾の呪術(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	台湾の呪術(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	草木中魚の人類学(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	草木中魚の人類学(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	カミと神(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	カミと神(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	沖縄のシャーマニズム(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	沖縄のシャーマニズム(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	タイの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	フィリピンの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	新しい神、古い神	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。

### 授業計画コメント

#### Course outline

文化人類学はとても面白い学問だと講義担当者は考えている。そして人間のことを扱うので、個人から社会まで、幅広い領域（おそらくありとあらゆる分野）をカバーしている。そして、その視野は環境、経済、法律、教育にまでも射程に収めてしまう。文化人類学者・レヴィ＝ストロースが世界の思想を牽引し、構造主義の中心に君臨したのは偶然ではなく、必然だったのだ。文化人類学の入門としての本講義を是非、受講してみたい。

### 授業の進め方

#### Session plan

本講義は対面形式で行なう。ぜひ、主体的に、取り組んでほしい。

### アクティブラーニング

#### Active learning

最終的にレポートを作成してもらおう。講義期間中、レポート作成に関する個別相談は随時、受け付けるつもりである。自ら考えることで、文化人類学をエンjoyしてほしいと強く願っている。

### 授業時間外の学修（予習・復習等）

#### Preparation and review outside classroom hours

最終的なレポートの作成を念頭におきつつ、適宜、学びを進めてほしい。

### 教科書等

#### Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						

2					
3					
4					
5					

(必ず購入すべきもの)  
Materials required for sessions

特になし。

参考図書  
Reference book(s)

祖父江孝男 1990 『文化人類学入門』, 中公新書.  
綾部恒雄(編) 2006 『文化人類学20の理論』, 弘文堂.  
そのほか、参考文献を適宜、お示しするので、貪欲に読み進めてほしい。

成績評価方法および評価基準  
Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点  
Assessment criteria

文化的事象を取り上げつつ、そのことについて、文化人類学的に考察してもらう。テーマは自由とするが、詳細な書式等については、追って、指示させていただく。

課題のフィードバック  
Feedback

講義内におけるフィードバックを心がけたい。適宜、オフィスアワーも活用してほしい。

学生へのメッセージ(履修上の心得)  
Message to students (class guidelines)

文化人類学はとても面白い学問である。とくに初めてのひとにとっては、衝撃的な内容となっており、発想の転換が訪れるかも知れない。文化、社会、環境、経済、法律、教育など、およそ考えつく、ありとあらゆる分野に応用が可能となっている。ぜひ、新しい「○○人類学」を、みなさん一人一人が構想してほしいと願ってやまない。

科目のレベル、前提科目など  
Level / Prerequisites

特に定めていない。意欲さえあれば、どなたでも、文化人類学の勉強を始めることができる。

キーワード  
Keyword(s)

文化人類学(宗教人類学)

講義コード Course code	021021101
講義名 Course title(Japanese)	文化人類学B
英文講義名 Course title (English)	Anthropology B
(副題) Course subtitle	
開講責任部署	
講義開講時期 Semester(s)	後期
講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2
時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	水曜日
時限 Period	1 時限
担当教員 Lecturer(s)	

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Hands-on experience	所属学部 Department
専任教員	齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

### 授業の内容（主題） Course description

文化人類学Aの内容を受けて、対面授業を実施する。  
具体的には、土器づくり民族誌ならびに宗教人類学（呪術）にフォーカスして授業を進めたい。  
結果として、他者・異文化と向き合う新しい視座をみつけてほしい。

### 到達目標 Course objectives

1. 土器づくり民族誌の概要を理解し、独自のアジア観を涵養する。
2. アジア各地の呪術実践について、知見を拓げる。
3. 宗教人類学の視点から、汎アジア的な文化観を構想できる。

### 授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	土器づくり民族誌 (1)	ネットで構わないので、関連する研究論文を検索し、読んでみてほしい。 そのために、4時間の学修を求める。
第2回	土器づくり民族誌 (2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。 そのために、4時間の学修を求める。
第3回	バングラデシュ の呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。 そのために、4時間の学修を求める。

第4回	スリランカの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	台湾の呪術(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	台湾の呪術(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	草木中魚の人類学(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	草木中魚の人類学(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	カミと神(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	カミと神(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	沖縄のシャーマニズム(1)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	沖縄のシャーマニズム(2)	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	タイの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第14回	フィリピンの呪術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	新しい神、古い神	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、4時間の学修を求める。

### 授業計画コメント

#### Course outline

文化人類学はとても面白い学問だと講義担当者は考えている。そして人間のことを扱うので、個人から社会まで、幅広い領域（おそらくありとあらゆる分野）をカバーしている。そして、その視野は環境、経済、法律、教育にまでも射程に収めてしまう。文化人類学者・レヴィ＝ストロースが世界の思想を牽引し、構造主義の中心に君臨したのは偶然ではなく、必然だったのだ。文化人類学の入門としての本講義を是非、受講してみたい。

### 授業の進め方

#### Session plan

本講義は対面形式で行なう。ぜひ、主体的に、取り組んでほしい。

### アクティブラーニング

#### Active learning

最終的にレポートを作成してもらおう。講義期間中、レポート作成に関する個別相談は随時、受け付けるつもりである。自ら考えることで、文化人類学をエンjoyしてほしいと強く願っている。

### 授業時間外の学修（予習・復習等）

#### Preparation and review outside classroom hours

最終的なレポートの作成を念頭におきつつ、適宜、学びを進めてほしい。

### 教科書等

#### Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						

2					
3					
4					
5					

(必ず購入すべきもの)

Materials required for sessions

特になし。

参考図書

Reference book(s)

祖父江孝男 1990 『文化人類学入門』, 中公新書.  
綾部恒雄(編) 2006 『文化人類学20の理論』, 弘文堂.  
そのほか、参考文献を適宜、お示しするので、貪欲に読み進めてほしい。

成績評価方法および評価基準

Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点

Assessment criteria

文化的事象を取り上げつつ、そのことについて、文化人類学的に考察してもらう。テーマは自由とするが、詳細な書式等については、追って、指示させていただく。

課題のフィードバック

Feedback

講義内におけるフィードバックを心がけたい。適宜、オフィスアワーも活用してほしい。

学生へのメッセージ(履修上の心得)

Message to students (class guidelines)

文化人類学はとても面白い学問である。とくに初めてのひとにとっては、衝撃的な内容となっており、発想の転換が訪れるかも知れない。文化、社会、環境、経済、法律、教育など、およそ考えつく、ありとあらゆる分野に応用が可能となっている。ぜひ、新しい「○○人類学」を、みなさん一人一人が構想してほしいと願ってやまない。

科目のレベル、前提科目など

Level / Prerequisites

特に定めていない。意欲さえあれば、どなたでも、文化人類学の勉強を始めることができる。

キーワード

Keyword(s)

文化人類学(宗教人類学)